

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成23年4月14日(2011.4.14)

【公表番号】特表2010-527397(P2010-527397A)

【公表日】平成22年8月12日(2010.8.12)

【年通号数】公開・登録公報2010-032

【出願番号】特願2010-508464(P2010-508464)

【国際特許分類】

C 08 L	31/02	(2006.01)
C 08 L	31/04	(2006.01)
C 08 J	3/05	(2006.01)
C 08 J	3/12	(2006.01)
C 09 J	131/02	(2006.01)
C 09 J	131/04	(2006.01)
C 09 J	123/08	(2006.01)
C 09 D	131/02	(2006.01)
C 09 D	131/04	(2006.01)
C 09 D	123/08	(2006.01)

【F I】

C 08 L	31/02	
C 08 L	31/04	S
C 08 J	3/05	C E R
C 08 J	3/12	Z
C 09 J	131/02	
C 09 J	131/04	
C 09 J	123/08	
C 09 D	131/02	
C 09 D	131/04	
C 09 D	123/08	

【手続補正書】

【提出日】平成23年2月25日(2011.2.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

表から、本発明に係る各々のセメント系タイル接着剤(例1, 2および3)は、耐水性のかなりの改善との組合せ(例1)または例2および3の場合では比較タイル接着剤例4と同様の耐水特性とともに、顕著に改善された耐熱性および20分オープンタイム後の強度を示すことが明らかである。

本発明は以下の態様を有する。

[1] (a) 2~4個の炭素原子を有するモノカルボン酸の、少なくとも1種のビニルエステル(i)、および、少なくとも5個の炭素原子を有するモノカルボン酸の、少なくとも1種のビニルエステル(ii)、を重合形で含むコポリマー、ならびに

(b) コポリマー(a)とは異なりかつ酢酸ビニルおよびエチレンを重合形で含むコポリマー

を含む、ポリマー組成物。

[2] コポリマー(a)が、20～95質量%の、2～4個の炭素原子を有するモノカルボン酸の1種以上のビニルエステル(i)、5～80質量%の、少なくとも5個の炭素原子を有するモノカルボン酸の1種以上のビニルエステル(ii)、および0～30質量%の1種以上の任意のコモノマー(iii)、を重合形で含む、上記[1]に記載のポリマー組成物。

[3] コポリマー(b)が、70～95質量%の酢酸ビニル、5～30質量%のエチレン、および0～25質量%の1種以上の任意のコモノマー、を重合形で含む、前掲の態様のいずれかに記載のポリマー組成物。

[4] コポリマー(a)のコポリマー(b)に対する質量比が、10：90～90：10である、前掲の態様のいずれかに記載のポリマー組成物。

[5] コポリマー(a)のコポリマー(b)に対する質量比が、40：60～60：40の範囲である、上記[4]に記載のポリマー組成物。

[6] 2～4個の炭素原子を有するモノカルボン酸のビニルエステル(i)が、酢酸ビニルである、前掲の態様のいずれかに記載のポリマー組成物。

[7] 少なくとも5個の炭素原子を有するモノカルボン酸のビニルエステル(ii)が、5～15個の炭素原子を有するモノカルボン酸のビニルエステルである、前掲の態様のいずれかに記載のポリマー組成物。

[8] 少なくとも5個の炭素原子を有するモノカルボン酸のビニルエステル(iii)が、分岐鎖モノカルボン酸のビニルエステルである、前掲の態様のいずれかに記載のポリマー組成物。

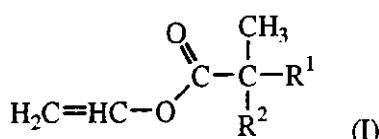
[9] 少なくとも5個の炭素原子を有するモノカルボン酸のビニルエステル(iii)が、-分岐モノカルボン酸のビニルエステルである、上記[8]に記載のポリマー組成物。

[10] 少なくとも5個の炭素原子を有するモノカルボン酸のビニルエステル(ii)が、3級カルボキシ基を含むモノカルボン酸のビニルエステルである、上記[9]に記載のポリマー組成物。

[11] 少なくとも5個の炭素原子を有するモノカルボン酸のビニルエステル(ii)が、バーサチック酸のビニルエステルである、上記[10]に記載のポリマー組成物。

[12] 少なくとも5個の炭素原子を有するモノカルボン酸のビニルエステル(ii)が、式(I)：

【化1】



(式中、R¹およびR²は、独立に、少なくとも1個の炭素原子を有するアルキル基を表す)で表される、上記[11]に記載のポリマー組成物。

[13] 少なくとも5個の炭素原子を有するモノカルボン酸のビニルエステル(ii)が、式(I)(式中、R¹およびR²は、独立に、10個の炭素原子を有するモノカルボン酸を与えるように選択される)で表されるバーサチック酸10のビニルエステルである、上記[12]に記載のポリマー組成物。

[14] (a)酢酸ビニルと、バーサチック酸10のビニルエステルとのコポリマー、および(b)酢酸ビニル/エチレンコポリマーを含む、上記[13]に記載のポリマー組成物。

[15] 前掲の態様のいずれかに記載のポリマー組成物を含む、再分散性ポリマー粉末。

[16] 保護コロイドおよび／または耐ケーリング剤を更に含む、上記[15]に記載の再分散性ポリマー粉末。

[17] 上記[1]～[14]のいずれかに記載のポリマー組成物を含む、水性分散体。

[18] 無機水硬性結合剤および上記[1]～[14]のいずれかに記載のポリマー組成物を含む、組成物。

[19] セメント系タイル接着剤である、上記[18]に記載の組成物。

[20] 上記[1]～[14]のいずれかに記載のポリマー組成物の使用であって、タイル接着剤、構造物接着剤、接合モルタル、漆喰、こて組成物、フロア充填組成物、または塗料における、使用。

[21] 上記[1]～[14]のいずれかに記載のポリマー組成物の使用であって、コーティング組成物または接着剤における任意の無機水硬性結合剤の不存在下でのバインダーとしての、使用。

[22] 上記[1]～[14]のいずれかに記載のポリマー組成物の使用であって、木材、紙または布地のコーティングまたは結合のための、使用。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) 2～4個の炭素原子を有するモノカルボン酸の、少なくとも1種のビニルエステル(i)、および、少なくとも5個の炭素原子を有するモノカルボン酸の、少なくとも1種のビニルエステル(ii)、を重合形で含むコポリマー、ならびに

(b) コポリマー(a)とは異なりかつ酢酸ビニルおよびエチレンを重合形で含むコポリマー

を含む、ポリマー組成物。

【請求項2】

コポリマー(a)が、20～95質量%の、2～4個の炭素原子を有するモノカルボン酸の1種以上のビニルエステル(i)、5～80質量%の、少なくとも5個の炭素原子を有するモノカルボン酸の1種以上のビニルエステル(ii)、および0～30質量%の1種以上の任意のコモノマー(iii)、を重合形で含み、

コポリマー(b)が、70～95質量%の酢酸ビニル、5～30質量%のエチレン、および0～25質量%の1種以上の任意のコモノマー、を重合形で含み、

2～4個の炭素原子を有するモノカルボン酸のビニルエステル(i)が酢酸ビニルであり、そして

少なくとも5個の炭素原子を有するモノカルボン酸のビニルエステル(ii)が分岐鎖モノカルボン酸のビニルエステルである、請求項1に記載のポリマー組成物。

【請求項3】

請求項1または2に記載のポリマー組成物を含む、再分散性ポリマー粉末。

【請求項4】

請求項1または2に記載のポリマー組成物を含む、水性分散体。

【請求項5】

請求項1または2に記載のポリマー組成物の使用であって、タイル接着剤、構造物接着剤、接合モルタル、漆喰、こて組成物、フロア充填組成物、または塗料における、使用。

【請求項6】

請求項1または2に記載のポリマー組成物の使用であって、コーティング組成物または接着剤における任意の無機水硬性結合剤の不存在下でのバインダーとしての、使用。